

平成28年 第2回

京田辺市議会定例会  
一般質問通告書

京田辺市議会

# 平成28年議会通告 第2回例会 目次

通告順位	議 員 名	ページ
1	増富理津子 . . . . .	1
2	南部登志子 . . . . .	3
3	河本隆志 . . . . .	5
4	横山榮二 . . . . .	7
5	上田毅 . . . . .	9
6	鈴木康夫 . . . . .	10
7	小林喜代司 . . . . .	12
8	青木綱次郎 . . . . .	14
9	櫻井立志 . . . . .	16
10	西畑利彦 . . . . .	17
11	次田典子 . . . . .	19
12	岡本亮一 . . . . .	21
13	米澤修司 . . . . .	22
14	河田美穂 . . . . .	23

### 1 子どもの貧困対策について

日本の子どもの6人に1人が貧困の状態にある。貧困の格差は教育の格差につながり、進学や就職に不利な状況をもたらすなど大きな課題である。本市における現状と対策及び考え方を問う。

- (1) 本市の貧困数値の把握と状況、相談体制は。
- (2) ひとり親家庭の貧困についての認識は。
- (3) 就学援助制度の実態に即した拡充を。
- (4) 学習支援事業についての現状と今後の取り組みを問う。
- (5) ソーシャルワーカーの拡充を。
- (6) 大学生への給付制奨学金制度の創設を府や国に求めよ。

### 2 障がい者施策について

(1) 65歳になると介護保険法が障害者総合支援法より優先適用され、それまで受けていた障がい者支援サービスよりも利用負担額が増え、利用時間やサービス量を制限せざるを得ない実態がある。市は個々の状況を把握しているのか。市の認識と対応について問う。

(2) 京田辺市障害者生活支援センター「ふらっと」が、4月から京田辺市いきいきサポートセンターの2階に移転した。障がい者が安心して施設まで行くことができるように、駅からの順路となる道路のバリアフリー化を急いで行うべき。

(3) 手話言語条例の制定へ推進を。

### 3 街路樹の改善について

(1) 街路樹の根が伸び、道路を押し上げたり、家庭の下水管に入り被害が出ている。下水管の状況や道路の点検調査を。

増富 理津子

(2) 根の張りにくい街路樹に変えるなどの対策を。

### 1 災害に強いまちづくりをめざして

- (1) 土砂災害警戒区域への対策について問う。
- (2) 3年前、4年前の大雨降雨時被害の状況を踏まえた上で、河川や雨水排水路対策について問う。
- (3) 京田辺市災害ボランティアセンターとの相互応援協定の取り組みについて問う。
- (4) 地震時のブレーカー遮断装置について、その効果についての市の認識を問うとともに、対応について問う（市民への周知、補助金制度を設けるなど）。

### 2 収集ごみの現状と課題について

- (1) にこにこ収集の利用状況（全体件数と住戸種類別件数の両方）について問う。
- (2) 大型ごみの収集方法について、住民の公平性をはかるよう求める。
- (3) 住民説明会については、区・自治会ごとだけではなく、大規模・中規模マンションごとにも開催するよう求める。
- (4) 大型ごみの有料化に伴い、不法投棄が増加すると懸念されるが、市の認識とその対策について問う。
- (5) 事業系ごみを家庭ごみとして排出している事業者の実態について、その事業者数と市の対応について問う。

### 3 支援を必要とする子どもたちの教育課題について

- (1) 市内の市立小中学校に入学したにも関わらず、途中で支援学校に転校する児童・生徒たちが複数名存在する。ここ10年くらいの実態と現状認識、課題について問う（小中学校ごとの人数や転校理由など）。

南部 登志子

(2) 加配教員の役割について問う。

### 1 組織体制について

- (1) 全国では人口減少が生じているが、本市ではこれからも人口増加が見込まれる。まちづくりの根幹となる新たな人材を増やしていくためにも、職員募集や採用枠の創意工夫も必要と考えるが、市の見解は。
- (2) 幼稚園教諭の正規職員採用についての見解は。
- (3) 保育所入所希望者が増えてくる中、保育士は不足している状況ではないのか。潜在保育士を含め、募集方法や採用方法を検証していくことが必要と考えるが、市の見解は。

### 2 天候変化による環境施策について

- (1) ウォームビズの導入についての見解は。
- (2) 中央体育館への空調設備設置の考えは。

### 3 防災力の強化について

- (1) 消火栓器具庫内に整備されている、消火栓ホースの規格を変更しては。
- (2) 消防団各部の編成一考する考えは。
- (3) 学生消防団の設立に対しての市の見解は。
- (4) 地震と水害では、避難する場所が違う。現在は各地域ごとに防災マップ等を作成されているが、実際災害が発生すると困惑することが考えられる。啓発も含め、訓練や日頃の活動の際にも、各地域住民の方に周知徹底していくことが必要だと考える。これらに対し具体的施策は考えているのか。

(5) ここ数年、本市でもゲリラ豪雨の発生や、24時間雨量が過去最高を記録するなど、想像できないような天候となっている。天津神川の雨水対策は、現状のままで本当に大丈夫なのか。府道八幡木津線水路橋辺りの一部狭くなっている箇所が特に懸念され、周辺住民も心配されている。今後の対策と府の対応はどのようになっているのか。

#### **4 市制施行20周年を迎えるにあたって**

- (1) 来年、20周年を迎えるにあたり、式典、事業等を検討されていると聞くが、現在の進捗状況は。
- (2) ロゴマークの公募や、その他さまざまな企画がされているが、市民や市外の方にも京田辺市をアピールする機会と考える。PRも含め、本市を全国に発信していくことも視野に入れた企画が必要だと考えるが、市の見解は。

#### **5 Wi-Fiスポット導入について**

観光客向け無料Wi-Fi接続サービスの整備が日本全国で進んでいる。本市でも、人が集まる場所や商業施設等を含め整備していく考えはないのか。

#### **6 商業施設等への共通投票所設置について**

公職選挙法改正により、共通投票所の設置、期日前投票時間の拡大、投票所内への同伴者入所基準の緩和等について一部改正された。共通投票所設置の判断は各自治体の選挙管理委員会が行うこととなっており、新たに投票所の設置を拡大できることも考えられる。これらに対しての市の見解は。

## 1 高齢者の生活とくらしを守るために

- (1) アベノミクスの経済政策によって後期高齢者の生活が圧迫され、安心して医療が受けられない不安が広がっている。ところが、政府は現在の低所得者や元被扶養者の「特例軽減」制度の廃止を決め、平成29年度から段階的に実施しようとしている。高齢者の生活とくらしを守るために実施すべきでないと思うが、市の考えは。また、後期高齢者医療制度はその目的に「医療費適正化」＝医療費削減を掲げ、医療内容の差別化にも通じる規定が盛り込まれ、各所で強く批判されている。この制度は廃止する以外にないと思うが、市の見解は。
- (2) 人間ドックの助成費など高齢者対策を重視している本市にふさわしく、がん検診への助成などよりいっそうの充実を求める。
- (3) 高齢化社会の中で、ますます巧妙化する悪質な商法が進んでいる。こうした現状の中で消費生活センターの役割が大切になっている。それにふさわしい体制と施設を充実し、市民への啓発を進めるべきと思うがどうか。

## 2 中学校給食について

- (1) 中学校給食実施は全国的にも大きな流れであり、近隣の自治体でも実施する方向に進んでいる。しっかり学んで実施に向けて取り組みを進めてほしい。また貧困対策としても、食育という観点からも、憲法や学校給食法の立場からも一刻も早く実施すべきと思うが、市の見解は。
- (2) 中学校給食について「昼食検討委員会」をつくり、市民公募で会議は公開することになっているが、できるだけ多くの市民公募からの参加を確保し、公開し、その内容を広く市民に知らせるべきと思うがどうか。

### 3 自治体職員の現状と課題

- (1) 本市職員の中での非正規雇用労働者が拡大している。安上がりの労働者を活用して、自ら官製ワーキングプアの拡大を進めることになるのではないか。市の見解は。
- (2) 非正規を増やし続けるのは、行政の本分「住民の福祉の増進に努めること」を放棄することにならないか、市の見解は。
- (3) 非正規雇用労働者との対話を重視し、要求を聞き、必要な改善を図るようにすべき。

### 4 地域要望について

市民の強い要望であったJR大住駅のエレベータは、いつまでに設置されるのか。また、JR大住駅の管理が業者委託となり、無人化する時間がどんどん長くなっているなどサービスが低下している。利用者の立場にたって充実させるべきだと考えるが、市の考えは。

## 1 文化振興策について

- (1) 文化振興計画の実施期間を10年として打ち出されたが、現在の進捗は。また、文化施設についての計画は進んでいるのか。
- (2) 今年度から、文化協会に文化コーディネーターが配置された。具体的な役割は何か。
- (3) 今後、市はどのように計画を活用して、文化振興につなげようと考えているのか。

## 2 幼稚園における職員体制及び留守家庭児童会について

- (1) 今年度、幼稚園教諭が多く採用されたと聞く。これで十分対応できるようになったのか。  
園児数が減少傾向にあるというものの、職員体制については、しっかり整えておく必要があると考えるが。
- (2) 留守家庭児童会の支援員・補助員の現状について、現在の人数で対応できているのか。

## 1 ホストタウン構想を成功させよう

東京オリンピックの合宿所として舞鶴市がレスリング、大山崎町がフェンシングで誘致を進めていることがNHKで報じられた。まちのブランドイメージ向上、スポーツ振興、運動施設改修の補助などメリットが大きい。

- (1) 本市も既にハンドボールの誘致を申請していると聞くが、その交渉状況と誘致の可能性を問う。
- (2) 合宿の練習施設となる候補は中央体育館としているが、選手団が宿泊する施設の確保はどのように考えているのか。
- (3) 市民のホスピタリティーが誘致の鍵と考えるが、その盛り上げ策を問う。

## 2 熊本地震から何を学ぶ

本市からも消防職員が早くから応援に駆けつけたと聞く。近畿地方周辺でも近い将来必ず起こると言われている震災から、市民生活を守るため、以下の点を問う。

- (1) 長期にわたり車上での避難生活を強いられた被災者が、エコノミー症候群を発症することが大きな問題となった。本件に対する市の見解を問う。
- (2) 本市において耐震基準を満たしていない建屋の戸数と割合、また、公共施設における耐震化計画の進捗状況を問う。
- (3) 民生委員から、市が作成している要支援者名簿の提供を受けることは難しいと聞くが、要支援者名簿作成の進捗状況とその活用方策についての基本的な考え方を問う。
- (4) 各区・自治会では、避難所として公民館を想定した整備を図っているが、食料の備蓄など、避難に対する指導状況を問う。

鈴木 康夫

(5) 熊本地震では、行方不明者の家族からドローンを活用して捜索してほしいという懇願が報じられていたが、あらゆる災害状況調査に対し、ドローンを活用する考えはないか。

## 1 市の農業振興について

農業を取りまく状況は非常に厳しい状況にある。T P P の大筋合意に伴い将来の見通しはさらに厳しいと思われる。

本市の農業も同様で、長期的な展望が見出せない中で、積極的な支援策が必要である。また、早急な対策が望まれている普賢寺地域振興への取り組み状況と、市内農産物の地産地消の拡大について、市の考えを問う。

## 2 通学時の安全対策について

- (1) 通園、通学時の安全対策として、通学路のカラー塗装や、ガードレール等の設置、安全ボランティアの協力などの対策を進められているが、現在も未整備となっている通学路に対する今後の計画は。
- (2) 各児童に非常用として笛を配付、所持しているが、急な時には吹けないと言う声も多く、「防犯ブザー」の配付を求める声が出ているが、市の考えは。
- (3) 児童を対象とした通学時安全対策の研修会を、定期的に行う必要があると考えるが、市の考えは。

## 3 非常災害時の対策について

- (1) 非常災害時の拠点である市消防庁舎や北部分署は、開設以来大きな整備はされていない。人員体制や資器材も大幅に充実してきた中で、非常災害時には万全の対応が取れるのか。
- (2) 災害時に対応できる耐震構造を持つ40 t程度の防火水槽設置を進められているが、現在の状況と今後の計画について問う。
- (3) 消防団協力事業所の登録状況と今後の計画について問う。

小林 喜代司

- (4) 非常災害時協力井戸の登録状況について問う。
- (5) 消防団等充実強化法施行に伴う本市消防団装備の整備状況と今後の計画について問う。
- (6) 震災時に農業用溜池の被害が報告されている。市内の農業用溜池について防災対策としての調査が必要であるが、市の考えは。

## 1 防災対策について

4月に発生した熊本地震は、大規模な地震が複数回にわたって発生するなど、従来の地震被害と異なる特徴があり、今後の防災体制、施策において、そのような地震の想定も必要となった。このことを踏まえて、今後の本市の防災対策について、以下の点で市の方針を明らかにされたい。

- (1) 今回の熊本地震について、現時点でその特徴や、防災上、留意すべき点などについて、市としてどのように認識しているか。
- (2) 熊本地震では多くの住民が避難せざるえなくなり、「車中泊」などの対応を余儀なくされた。本市における避難所の収容人数の見通しと、災害発生時にその見通しを上回る住民避難が起きた際の対策について、検討すべきと考えるが市の方針は。
- (3) 今年度に行う市の地域防災計画の見直しの要点と、今後の見直し方針の要点は。
- (4) 避難所運営訓練の重要性はますます高まってきていると思うが、今後の実施計画と、同時に複数避難所で訓練実施すべきと考えるが市の方針は。
- (5) 本市の地域防災会議に、区・自治会や自主防災組織の代表など、住民参加をすすめて、より多くの住民の声を反映するとともに、地域の防災活動の担い手の育成をはかることが重要と考えるが、市の方針は。

## 2 原発事故発生に備えた取り組みについて

- (1) 高浜原発及び大飯原発での事故発生に備えた京都府の「原子力災害に係わる広域避難要領」では、本市でも府北部住民の避難受入れが想定されている。そのための市の準備、取り組みについて、概要や課題など明らかにされたい。

- (2) 福島第一原発事故で被害を受けた範囲を鑑みた場合、原発から80キロ圏内にある本市においても、万一の原発事故に備えて、全市避難のための具体的な計画を作成することが必要と考える。そのために、国及び京都府に対し避難先の選定や、避難方法などの作成のための、具体的な援助を申し出るべきと考えるが、市の方針を明らかにされたい。
- (3) 今年3月9日、大津地方裁判所は、高浜原発から70キロ圏内の滋賀県住民による、高浜原発3、4号機運転差止請求に対して、それを認める仮処分決定を下した。同決定では、住民の請求を認めた理由の一つとして、事故発生時の住民避難計画の不十分さを指摘している。
- この大津地裁仮処分決定についての市長の見解を明らかにされたい。

### 3 身体に障がいを持つ児童、生徒の学校生活の支援について

- (1) 日常の歩行、移動などに障がいがある児童、生徒の学校生活に対して、必要な支援を行うべきと考える。この点で、支援員、介助員の配置などについて、市の基本的な方針を明らかにされたい。
- また、保護者や学校などから、支援員などの配置の要望があれば、市として積極的に応えるべきと考えるが、市の方針を明らかにされたい。
- (2) 全国的には、特別に支援が必要な児童生徒等に対して、学校生活を支援するための「スクールヘルパー」制度を導入している自治体もある。本市でも恒常的な制度として「スクールヘルパー」制度を導入してはどうかと考えるが、市の見解を明らかにされたい。

**1 安心・安全のまちづくりは防災対策の強化で**

- (1) 此の度の熊本地震の発災時に自家用車で寝泊まりする被災者が、「エコノミークラス症候群」に罹ったケースが多く見られ、新たな問題となった。この教訓を生かして、避難所の環境整備や被災者の健康を守る対策として、マニュアルの見直しが必要と考えるが。
- (2) 災害時の避難所の環境整備として、トイレの整備は大変重要である。本市では2か所の防災公園に設置されている、衛生的で快適に使用できるマンホールトイレを学校や都市公園に拡充すべきと考えるが。
- (3) 本市は、災害発生時の被災情報や行政情報を一元化し、迅速に事務処理できる「被災者支援システム」の導入を進め、防災対策に取り組んでいる。平時の備えとして、どこまでシステム整備が進んでいるのか、その進捗は。

**2 子どもたちに夢を与える教育について**

- (1) 子どもたちの学習意欲の向上や世界的な視野を育む一助とするため、中学生に対し「英検3級」の検定料に助成をしてはどうか。
- (2) 子どもたちに我がふるさと京田辺を知り、好きになってもらうため、仮称「子ども京田辺ものしり検定」、いわゆる資格認定制度の実施をしてはどうか。

**3 交通渋滞の緩和対策について**

- (1) 府道八幡木津線の渋滞緩和策として、京都府が進めている茶屋前交差点の右折レーン設置の進捗状況を問う。

**1 開発行為の審査について**

- (1) 国道307号大阪府界より旧307号交差点までの区間は、北斜面を利用した工業区域である。その境界から市街化調整区域を挟んで第1種住宅専用区域（薪・一休ヶ丘地区）があり多くの住民が生活している。最近、307号を利用する大型ダンプカーの増加や住宅地近辺での碎石採集事業所などの影響で土埃や騒音、振動が発生し環境破壊が進んでいるが、市はその実態を把握しているのか。
- (2) 本市では、住民生活を守るためにどのような視点で開発申請の審査をされてきたのか。また、最近社会問題となっている土砂採集や太陽光発電などの新たな事業化に対する開発等の規制が必要と考えるが市の考えは。
- (3) 申請許可後、当初の環境が維持されるためのチェック体制はどのようにされているのか。また、許可事項が守られていない場合や無許可の場合、本市では事業者に対して、どのような指導や対応が執られているのか。
- (4) 熊本地震を教訓として、住宅地の避難迂回路の確保、急傾斜地対策、天井川の耐震補強などが急務と考えるが市の考えは。

**2 ごみ分別収集、粗大ごみ・持込ごみの有料化について**

- (1) ごみの減量化のためには、住民の理解と協力が必要不可欠である。そのためには、本市が行おうとしている地元区・自治会説明会により多くの住民参加を得なければならないが、どのような手法を考えているのか。
- (2) ごみ量そのものを縮減するには、製造・販売事業者側への商品梱包見直しが求められているが、本市として具体的な取り組みとスケジュールはどのように考えているのか。

- (3) 低所得家庭に対する減免措置はどのような基準と内容で考えているのか。また、持込ごみについても例外事項は考えているのか。

### 3 バス停留所の改善と新たな設置について

- (1) 京阪バス（新田辺～茂ヶ谷）路線において、利便性向上のため、上り方向「田辺本町バス停」の復活と、昼間時間帯における買い物客の要望に応えるため、アルプラザ前のロータリーに新たなバス停を設置する必要があると考えるが市の考えは。
- (2) バス利用者の乗り降りを安全にするため、バス停留所での停止位置の明確化と段差解消が必要と考えるが実態把握されているのか。また、その対策はどのように考えているのか。

<p><b>1 野外活動センターにおける「不適切な会計処理」について</b></p>
<p>(1) 京田辺市野外活動センター（竜王こどもの王国）における職員の「不適切な会計処理」についての調査結果を明確に示せ。</p> <p>(2) 「不適切な会計処理」を行った職員と管理者への対応は。また、再発防止に向けての取り組みは。</p> <p>(3) 野外活動センターでは過去にも汚職事件が起こっている。指定管理者制度の対象としてはどうか。</p>
<p><b>2 多様な教育機会確保法案について</b></p>
<p>(1) 法案成立に向け、国に先がけ、近隣も含め夜間中学、自主夜間中学、フリースクールの実態調査をせよ。</p> <p>(2) 文科省が出している「夜間中学のご案内」について、市はどのように対応するのか。</p> <p>(3) 移転したポットラックの現状と今後について問う。</p>
<p><b>3 枚方市とのごみ広域化問題について</b></p>
<p>(1) 市民への説明が不十分だ。なぜ、ごみ有料化説明会の開催回数と同じ程度の説明会をしないのか。</p> <p>(2) 30年後、焼却施設を枚方市に移転する確約を明示せよ。</p> <p>(3) 市民の健康や環境への影響はどのように考えているのか。</p> <p>(4) 単独処理との比較はどのように行ったのか。</p>
<p><b>4 土砂災害特別警戒区域指定について</b></p>
<p>(1) 同志社住宅（天神山）における区域指定に向けた現状は。</p>

次田 典子

- (2) 市内全域の特別警戒区域の状況と府の説明会の内容は。
- (3) 土砂災害編ハザードマップの作成はどうするのか。

### 1 南部住民センターについて

- (1) 市南部地域のコミュニティの形成や市民相互の交流、住民サービスなど多様化するニーズに応えるために、南部住民センターを早急に建設すべきと考えるが、その認識を問う。
- (2) 公共施設白書を基礎資料とし、公共施設等総合管理計画の策定が進められているが、そのなかで南部住民センターの整備計画について、どのような検討がされているのか進捗状況を問う。

### 2 留守家庭児童会について

学級中・長期休暇中の受け入れ体制及び、指導員の働き方について以下3点を問う。

- (1) 児童の安全確保及び、指導員の労働時間厳守のために指導員の増員を求める。また、各クラス2名以上の指導員を配置すべき。
- (2) 各留守家庭児童会に、副主任を配置すべきと考えるがどうか。
- (3) 開設時間の延長を求める。

### 3 交通安全対策について

同志社山手北バス停前の横断歩道に信号機の設置を。また、歩行者やドライバーから死角となる山手幹線中央に設置されているガードレールの改善を求める。

### 1 震災対策について問う

- (1) 本市が行った熊本地震被災地への人的・物的な支援状況は。
- (2) 本市の一時避難所、広域避難所、公民館、拠点施設の耐震化は。
- (3) 車で避難される場合の避難場所の確保について、市の考えは。
- (4) 耐震シェルター、防災ベッドなどの普及と助成制度について、市の考えは。
- (5) 災害時相互応援協定締結自治体の拡充について、市の考えは。
- (6) 福祉避難所の避難スペース、介護者などの人材確保について市の考えは。
- (7) 本市が災害時の後方支援拠点としての役割を担うことについて、市の考えは。

### 2 公的施設における太陽光発電の整備状況を問う

- (1) 各施設の設置状況（蓄電池設備の有無を含む）と、昨年度の発電状況は。
- (2) 今後の整備計画は。

### 3 学校給食について問う

米飯給食時には、牛乳ではなくお茶を出すようにしてはどうか。

### 4 今後の市立幼稚園のあり方について問う

利用者のニーズにこたえ、入園希望者が増えるよう考える必要があるのでは。

### 1 子育て施策について

- (1) 子どものB型肝炎ワクチンの予防接種について。
- ア B型肝炎ワクチンが本年10月から定期接種化されるが、本市の取り組みは。
- イ 定期接種の対象からもれてしまう乳幼児に市独自で助成をすべき。
- (2) 3人乗り自転車の購入費助成やレンタル制度を実施すべき。

### 2 高齢者施策について

- (1) 高齢者の自転車講習会の本市の取り組みは（参加者を増やすにはなど）。
- (2) 電動車いすの安全対策の取り組みは。
- (3) 運転免許証自主返納者へ、バスチケットやタクシーチケットを交付してはどうか。

### 3 安全・安心のまちづくりについて

- (1) 暗く危険な場所への防犯灯の設置はどのようにしていくのか（田辺高校前など）。
- (2) 歩道などの木の剪定・除根・点字ブロック・手すり・段差等々の点検・整備・新設への本市の取り組みは。